

図書だより

白楊高校図書館 2013.11.29

こんにちは。先週は白楊祭お疲れさまでした！ 美味しいものも、楽しいことも盛り沢山でしたね。2-7のおみくじが大凶で少しドキドキしましたが、ゴリラに気をつけろ、とのこと。日常的にそれほど会わない動物で良かった…。それにしても、みなさんの至れり尽くせりなおもてなしで、図書だよりを作るのも忘れて白楊祭を満喫してしまいました。ということで、11月号が11月中に出せて一安心でございます。みなさんは白楊祭が終わったと思いきや期末テスト突入で大忙しですが、これが終わればクリスマス！あと、お正月！風邪には気を付けて頑張ってください！



疾風ロンド
(東野圭吾)



地域食材大百科
第9巻



7つの習慣
(スティーブン・
R・コヴィー)



終物語
(西尾維新)



銀の匙 9
(荒川弘)



砂川先生presents読書会



11月8日の放課後、読書週間ということで、図書委員さんに集まって頂き、読書会を開催致しました。

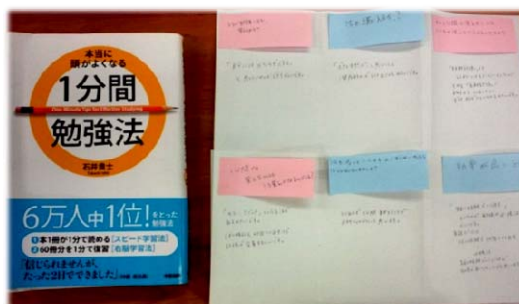
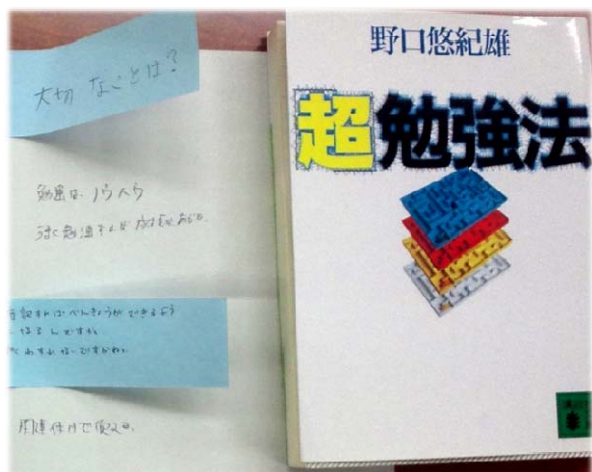
まず7人ぐらいのグループになり・・・

- ① 砂川先生チョイスの本の中から1冊選ぶ (今回は学習法の本)
- ② 1分間パラパラ読み、30秒で本の内容をあてずっぽうに紹介
- ③ 隣の人に自分の読んでいた本を回す
- ④ 回ってきた本を1分間読み、その本についての質問を1つ付箋に書き表紙に付ける × グループの人数
- ⑤ 自分の本が返ってきたら15分間読み、それぞれの付箋の質問の答えを見つける
- ⑥ 1枚の紙に付箋と答えをまとめたら出来上がり！ この表を見たらその本がどんなことが書いてあるかが分かります！

別名
アンモナイト読書員。



今回の読書会マインドマップ！
真ん中のグルグルがアンモナイトパンを彷彿とさせます。



みんなで本をグルグル回したら、本の大切なポイントが見えてくる！
これぞ、グルグル読書会！



図書室の絵本コーナーにブリックカフェオレの紙バックがポイ捨てされていました。図書室は飲食禁止です！そしてゴミはゴミ箱に！マナーを守りましょう！

先生のオススメ

英語科
大木弘行 先生



『死刑執行人サンゾン』
安達正勝
集英社



『イノサン』
坂本眞一
集英社



今回本を紹介して下さるのは、
実は1カ月置きに登場して頂いている大木先生と、司書の癒し、萩原先生です！

服飾デザイン科
萩原葉子 先生



『贈る物語 Terror』
宮部みゆき
光文社



『鬼談百景』
小野不由美
メディアファクトリー



山岳マンガの傑作と言えば『岳』より『孤高の人』だろう？

先日18年間連載が続いた『頭文字D』全48巻がサクッと完結して一抹の寂しさをおぼえる今日この頃、貴兄はいかがお過ごしのことであろうか？というわけで（どういうわけだ？）今回はコミックの話題。電車で『少年ジャンプ』を堂々と読んでるサラリーマンを見ると「なんだかな〜」と思ってしまうのだが、私自身決して漫画がキライなわけではない。いや最近よくインターネットカフェで玉撞きする都合上、むしろ読んでる方なのかも知れない。インターネットカフェには当然膨大な数のコミックが置いてあるのだが、その中に小説を原作としているものも少なくない。『砂糖菓子の弾丸は撃ち抜けない』『永遠の0』『風が強く吹いている』『夜は短し歩けよ乙女』『終戦のローレライ』などちょっと思い出しただけでも結構な数。（あの『バガボンド』だって吉川英治の『宮本武蔵』を下敷きにしている）いずれも小説の方を読んだことがある作品でタイトルを見て「あ...これコミック化されているのか」と気づくパターン。

ところが今回紹介する安達正勝『死刑執行人サンゾン』（集英社新書）はコミックの方（坂本眞一『イノサン』）を先に読んで「コレはすごい！」と調べてみたところ実は新書が出典で、この新書の方も輪をかけて素晴らしいという、私にとっては大変珍しい経緯を辿った本である。さて『死刑執行人サンゾン』はフランス革命に生きた「処刑人」一族、サンゾン家の4代目シャルル＝アンリ・サンゾンについて書かれており、新書というより寧ろ小説に近い感覚で読める。拷問や様々な処刑法からフランス革命とギロチンの誕生とチョット刺激的な内容だが、死刑執行人としてのシャルルの心理的な葛藤を見事に描き出している点で秀逸だと思う。本校の図書館に置いてあるので興味があれば手に取って欲しい一冊である。

背筋凍える冬のホラー

「ホラーといえば、夏」ですが、個人的には冬に怖い話を読むのもお勧めです。こたつでアイスを食べると似たようなものと言えただけなのではないでしょうか。ホラー以外のミステリーも混じっていますが、ぞっとするような怖い本を紹介してみようと思います。

『贈る物語 Terror みんな怖い話が大好き』//宮部みゆき（編）

宮部みゆきさんが選んだ怖い話の短編集です。ホラーの古典といわれるものが収録されています。ホラーの入門編にどうぞ。

「猿の手」は一見みすぼらしい猿の前足のミイラだが、持ち主の願い事を三つ叶えてくれるという魔力を持つ。しかし、その願い事の成就には高い代償が伴うというー（猿の手）

『鬼談百景』『残穢』//小野不由美

『鬼談百景』が99話の読者から集めた怖い話、『残穢』は長編で2冊続けて読むと、全部で百物語です。『残穢』は淡々とした語り口なので、「わかりやすく怖い」わけではありません。正直なところ、洋画のホラーアクションやパニックものが好きな人には向かないと思います。ですが、読み終わった後に、「これって作り話だよね、なににも起きないよね」と、背中がぞっと寒くなる感じが味わえます。想像力豊かな人や「呪怨」のような怖さが好きな人は楽しめるかも。

おどろおどろしく、ちょっぴりグロテスクなのが平気な人はこちらどうぞ。

『眼球綺譚』//綾辻行人

「Another」などの作者さんといったほうが皆さんには身近でしょうか。

『眼球綺譚』：怪奇と狂気と幻想が入り混じった短編集。※食事中には向きません。食前にも向きません。食後は.....消化し終わってからのほうがいいのかもかもしれません。

あとは、高校生の時期に読みやすい怖いホラーやミステリーだと乙一さんの本が読みやすいと思います。『GOTH』や『暗黒童話』『夏と花火と私の死体』などなど図書室にそろっていました。

小説だからこそ味わえる怖さ、寒い冬に背筋凍える非日常的な話を楽しむのもいいかもしれませんよ。

大木先生・萩原先生ご協力ありがとうございました！

図書委員さんのオススメ



高校入試 湊かなえ

ドラマで見た人いるでしょう！高校入試っ！！！！
どうせドラマと同じだと思っている君！！！！！！
それは大きな間違いである。これは、長編書き下ろしなので、ドラマとは異なる「もうひとつのラストが待ち受ける！」

一鬼夜行 小松エメル

舞台は江戸。強面で周囲から恐れられている若商人・喜蔵のもとに小春と名乗る少年が落ちてきた！不思議な力をもつ小春は自らを「百鬼夜行からはぐれた鬼だ！！」と主張する。

同居するはめになった喜蔵は、つぎつぎと妖怪沙汰にまきこまれていき・・・

第6回ジャイブ小説大賞の大賞受賞作品です。作品に引き込まれることまちがいないし！